

# 議会報

# 飯南

いinan

- 02 年頭のあいさつ  
一般会計補正予算
- 03 12月定例会報告  
可決された主な議案  
議会全員協議会の議題
- 04 一般質問
- 08 討論 決算審査報告
- 09 研修報告
- 10 常任委員会報告  
採決の結果 議会活動報告
- 12 明日を拓く

第56号  
平成31年1月18日



# 年頭のごあいさつ

飯南町議会議長 小野 覚

新年明けましておめでとうございます。

町民の皆さまにおかれましては、穏やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より町議会に対しご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は1月の大雪に始まり、地震・豪雨・台風、更には猛暑と、日本国中が自然災害に見舞われました。自然災害は年々増加しており、十分な注意と備えが必要になっております。

議会では、10月に島根県町村議長会が主催の「防災・減災に対する議員の役割」を受講し、11月には熊本県大津町で、熊本地震での議会の対応と「議会災害時対応基本計画」について視察し、議会としての危機管理が必要であると改めて認識しました。

また、一方では地方創生・地方活性化が叫ばれ、地方の役割が拡大する中であって、議会の責務も増大しています。これに迎え議会の機能強化と改革に取り組むべく、最高規範となる「飯南町議会基本条例」の策定を進めており、本年7月に成案を得ることとしています。

二元代表制の一翼を担う議会の責任を自覚し、議員が一九となり負託に応えるべく全力で取り組んでまいります。

皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げますとともに、ご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い致します。



## 平成30年 12月定例会を終えて

12月4日から14日までの11日間の日程で開きました。

昨夏の記録的な暑さから、その対策として、小・中学校と保育所にエアコンを設置することにしました。小・中学校の教室にエアコンを整備することで、健康への配慮と教育環境の改善を図ります。また、保育所も、全ての保育室にエアコンを整備されます。広島市在住の本町出身者から、家族が本町の病院で世話になったことに感謝され、寄付を頂きました。ご芳志を原資にして、飯南病院のリハビリ用機器を購入します。

## 可決された主な議案

### ■ 条例関係

飯南町定住促進住宅賃貸住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例など6件

### ■ 予算

平成30年度飯南町一般会計補正予算(第6号)など12件

### ■ 諸議案

雲南広域連合規約の一部を変更する規約について

## 議会全員協議会の議題

平成30年10月19日(金)

- ①来島拠点複合施設のレイアウト変更等について
- ②出雲ナンバーデザインアンケートについて

平成30年11月19日(月)

- ①雲南市・飯南町事務組合ケーブルテレビ事業納付書誤発送について
- ②森林整備地域活動支援交付金の返還について
- ③地方公営企業法適用化について
- ④小・中学校のエアコン設置について

平成30年12月13日(木)

- ①給与等の改定について
- ②飯南町と日本郵便株式会社飯南町内の郵便局及び松江中央郵便局との地域活性化包括連携に関する協定について
- ③火災発生時の告知放送等について
- ④「出雲ナンバー」の提案デザインの決定について
- ⑤大銃産業(大阪市本社)による農業振興の提案について
- ⑥国道54号チェーン規制について
- ⑦小・中学校エアコン設置事業について



## 【平成30年度 一般会計補正予算】

保育所エアコン設置479万円の増額、小中学校エアコン設置1億886万円の増額、老人保護措置費350万円の減額、公共土木施設災害復旧費2,288万円の増額など

2億2568万円増額

各会計	予算額	予算総額
<b>一般会計</b>	<b>2億1507万円</b>	<b>86億6572万円</b>
特別会計		
国民健康保険事業	3万円	6億9120万円
後期高齢者医療事業	74万円	1億7336万円
簡易水道事業	614万円	4億4909万円
下水道事業	425万円	4億528万円
介護保険サービス事業	24万円	3374万円
病院事業会計	△79万円	12億7597万円

# 一般質問

12月定例会



瀧尻 行雄 議員

**Q 集落維持と農福連携の充実を**

邑南町の口羽川角集落は、8世帯12人、高齢化率100%の危機的集落である。山あいの高原地帯で、かつて30世帯150人が養蚕、葉タバコを主要産業としていた。50年間出生率0という状況の中、10年で集落は消滅してしまふと感じながら日々暮らしている。

これは本町近隣地域での実態である。この現状を見て危機感はないか。

政府は、少子高齢化対策として「1億総活躍プラン」を打ち出した。女性や高齢者の活躍、障がい者の就労支援に期待している。

町内の福祉施設では農作業と連携した就業支援が行われており、障がい者の就労支援には特に力を入れるべきと考える。

平成29年度、本町のU・Iターン定住者は54名であった。これは定住対策が高く評価されている証である。今後も更なる温かい施策が展開されることを期待するが、町長の所見は。



農福連携によるイモの収穫作業

## A 幸せを実感できるまちづくりを推進

町長 山崎 英樹

今進めたいことが2点ある。一つは、小さな拠点という考

え。生活機能、生活交通、地域産業と連携し、医療・介護・予防・住まい・生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステム、これは着実に前進している。

二つ目は、災害にいかにか立ち向かうかということだ。

今年度から集落実態調査を行い、持続できる地域づくりに取り組む。災害に対し、強く立ち向かう自主防災の組織化も進めている。引き続き危機感を持ち対策していく。

次に、農福連携は、高齢者、子どもを含め地域の住民が役割を持ち、助け合いながら生きていく地域社会の創造に繋がると思う。今後も農業担い手支援センターを中心に、関係機関と情報共有しながら農福連携を進めていく。

本町への定住者増加は、県下でもトップランナーとして位置づけられている。農業と移住とは密接な関係がある。県の農業経営課・農林振興センターと本町の産業振興課・地域振興課とが定期的に情報交換し、農業の担い手が生まれ、移住と結びつく施策を展開していく。

本町で暮らすことが幸せと実感できるまちづくりを進めたい。

# 一般質問

12月定例会



内藤 真一 議員



中山間地域研究センターの飼育牛

**Q 飯南和牛を全共へ**

平成29年宮城県で開催された「全国和牛能力共進会」には、町内から1頭も出品できなかった。次回の「鹿児島全共」には必ず出品し、優秀な成績を収める必要がある。

現在、町では、年間200万円の予算で、1件あたり最大20万円を補助しているが、現在の子牛の市場価格からみると低い。本町に良い子牛が残せるか心配である。



県共進会グランドチャンピオン受賞牛

「宮城全共」で優秀な成績を収めた鳥取県伯耆(ほうき)町の支援状況を調査したところ、きめ細かい支援が行われ、肥育に至るまで配慮されていた。この成績に至るまでには、10年の月日が必要だったと聞いた。

そこで、本町においても10年後を見据えて、島根県が推奨する「久茂福(ひさしげふく)系の子牛の保留を促し、飯南町和牛の価値を高めていく努力が必要だ。

そのためには、1頭当たりの補助金を増額するなど、運用幅をもった支援により、飼育農家に意欲を持ってもらうことが必要である。全共の舞台に立つよう支援を求める。

## A 飼育技術の確立を

町長 山崎 英樹

畜産支援には、雲南農業振興協議会を通じたものを含め、できる限りの支援をしてきたと自負している。現実的で具体的な提案を頂いたと思う。

引き続き受精卵移植等を推進するとともに、「久茂福」系統牛の資質向上のため、飼育技術の確立が重要と考えている。

優良牛確保対策補助金については、飯南町和牛改良組合や関係の皆さんと十分検討し、現場の方々が熱意を持って取り組める形にしていきたい。

**Q 冬季インフラ保全是**

昨年の冬は、大雪や寒気によりいろいろなトラブルが発生した。

その反省から、防災体制や電気、水道、除雪等について、どこをどのように改善したのか。

**A 保身に努力**

建設課長 和田 真一

水道については、異常水量の早期発見と施設の状態を常時監視できる中央監視装置の整備を進めている。また、水道メーター検診の回数を増やし、漏水の発見に努める。

除雪作業は、担い手の高齢化により人材が不足しているため、免許取得費用の助成などで担い手確保を進めている。

# 一般質問

12月定例会



安部 丘 議員

## Q 防災啓発の強化を

飯南町地域防災計画によれば、普段から情報開示や施策を通し、防災意識の啓発が求められている。町民への啓発活動をどのように進めているのか。また、避難訓練に合わせ、停電や断水を想定した避難所の点検など、住民が課題を話し合い整理する働きかけが出来るか。避難訓練の隔年での実施サイクルも見直してはどうか。

自然災害が頻発しており、全国的に防災への関心は高い。これを期に、自主防災組織を機能させる啓発を進めることが望まれる。



災害対策本部

## A 普及啓発に努める

町長 山崎 英樹



地域に密着した自主防災組織の結成を促進するために、広報誌やパンフレットなどによる普及・啓発活動をおこなっている。

防災訓練は「公助」の視点に立ち、町内施設や消防・警察との連携を機能させるための訓練をしている。全体訓練のサイクルについては検討してみた。

町が中心となり、関係機関と連携し、町全体の防災意識が高まるよう、今後も普及啓発に努める。

## Q 伝統文化継承の取り組みを

出雲大社神楽殿に大しめ縄が奉納され、全国から注目を集めた。全国的にしめ縄づくりの技術がすたれていく中で、本町に制作を依頼する神社は年々増加している。

平成27年以降、しめ縄を納めた神社は94社、来年は既に20社あり、更に増えることは間違いない。

しかし、しめ縄づくりに携わる皆さんは20数名で、多くは60代半ば、後継者育成は進んでいない。広く協力を得て、伝統文化を継承する取り組みが必要ではないか。世代を超え脈々と受け継がれてこそ「日本一大しめ縄の里」だ。

## A 産業化に向け支援

町長 山崎 英樹

注連縄企業組合は、技術伝承の活動や、生産拡大と商品開発・販売を担う企業組合として設立された。今後に向けて、企業組合の体制づくりが求められる。



一人しかいない「こも」づくりの技術者

そうした体制の中で、生産の拡大、後継者の育成が可能となるよう、町としても産業化に向けた取り組みを支援していく必要があると考えており、企業組合と話し合いを行っている。

住民の協力を得て、「大しめ縄の町」としてのブランドを一層推進し、伝統文化として継承していく。

また、米価は予断を許さず、状況の変化に対応できる対策として、生産基盤の整備が最も急務だと考える。

## A 予算確保に努める

町長 山崎 英樹

本町では、平成27年度にTPP対策も加味した「飯南町農業振興計画」を策定し、その目標達成に向け政府事業を活用し各種施策を実施してきた。

TPP発効後も「飯南町農業振興計画」を基軸とし、TPP対策事業等を活用しながら農業振興に努める。

産地間競争が激化する中で、生産コスト削減が強く求められており、生産基盤再整備の要望も増している。早急な整備が必要であり、農水省や財務省に向き予算の確保を強く要望したところである。引き続き努力する。

# 一般質問

12月定例会



熊谷 兼樹 議員

## Q 町奨学金貸付制度について

本町では奨学金貸付制度を実施している。これとは別に、飯南町医療及び福祉従事者確保対策助成金制度がある。この二つの制度は、貸付金と助成金の違いから、返済の有無が異なる。それぞれ優れた制度だが、必ずしも利用者の視点に立ったものになっていないと思う。

近年は、医療・福祉にかかわらず人手不足が深刻化しており、奨学金貸付制度の利用者も、卒業後に町内に就職すれば返済を免除するというの



## A 給付型は検討中

町長 山崎 英樹

本町の奨学金貸付制度の目的は「保護者の経済的負担の軽減」である。

本町を担う人材の育成、あるいは定住対策など、本人への支援は、奨学金の免除ではなく、新たな給付型奨学金制度として検討を続けている。

これを制度とするためには、まだ十分な検討が必要で時間を要する。

## Q TPP対策に

### 基盤整備が急務

政府は平成27年度補正予算で、農林水産分野において「TPP大綱を実現するための予算」を組んだ以降、28年、29年と各年度3000億円を上回る額を補正予算で予算化し



TPPでどうなる米価

# 討論

**飯南町議会議員の議員報酬及び費用弁償支給条例の改正**  
飯南町議会議員の期末手当支給割合を引き上げるもの

**賛成討論** 熊谷 兼樹議員

前回の改正では人事委員会に準ずるのではなく、自主的に決めるべきという立場で反対した。今回は、既に県議会において賛成多数で条例が定められ施行されており、受け入れざるを得ない。

**賛成討論** 伊藤 好晴議員  
小・中学校の空調設備設置が予算計上されており評価する。しかし、特別職及び議会議員の報酬引き上げが盛り込まれており問題がある。一般職の給与引き上げが実施されるが、臨時職員や嘱託職員、指定管理者のもとで働く労働者、医療・福祉の現場で働く労働者の賃金が引き上げられるよう対応を求める。

**飯南町一般会計補正予算(第7号)**

**賛成討論** 伊藤 好晴議員

## 決算審査報告

決算審査特別委員会委員長 門 眞一郎

**審査の対象**

- ・平成29年度飯南町一般会計歳入歳出決算書及び関係書類
- ・平成29年度飯南町国民健康保険事業外4件の特別会計歳入歳出決算書及び関係書類
- ・平成29年度飯南病院事業会計歳入歳出決算書及び関係書類

**審査意見**

財政指標の状況は、経常収支比率が93.6%で前年度より1.2ポイント増加、地方債現在高比率が238.9%で前年度より5.3ポイント増加している。

**未収金**

一般会計の未収金は60万円増、国民健康保険事業特別会計は70万円増、簡易水道事業特別会計209万円増、下水道事業特別会計は128万円増と、大幅な増となっている。住民の不公平感を払拭するため、早期徴収に努められたい。

**教育振興経常管理費**

学校でのALTによる外国語教育には一定の評価ができるが、図書室に外国語図書を置くなど、子ども達が外国語に興味を持ち親しむよう配慮されたい。

**飯南パートナーズ**

野菜買取り制度を導入するなど集荷増に努めているが、品揃えが不十分である。生産者との繋がりを深め、出荷意欲向上に努められたい。

**ふるさと納税**

ふるさと納税額が1億2500万円余と過去最高を記録した。今後も地元特産品を活用し、飯南町をPRされたい。

# 研修報告

総務厚生常任委員会 委員長 瀧尻 行雄

おお づ まち  
**熊本県 大津町議会**  
いぶ すき  
**鹿児島県 指宿市役所**  
しら ほと かい  
**社会福祉法人 白鳩会**

日程/2018年11月14日~11月16日



大津町役場での研修

## 災害時対応基本計画

熊本県 大津町議会

大津町は、平成28年4月の熊本地震で大きな被害を受けた。その際、6月議会を8月に延期し、会期を1日に短縮するなどの対応を余儀なくされた。被害状況や復旧・復興への対応について、情報共有も十分に行うことが出来ず、議会機能が発揮できない事態に陥った。

この反省を踏まえ、災害など非常時に議会はどのように機能を維持し、迅速な意思決定と多様な町民ニーズを反映して活動するのかを定める「災害時対応基本計画」が策定された。内容は次の6項目に分類されている。

- ・計画の必要性と目的
- ・災害時の議会・議員の行動方針
- ・災害時の執行機関の動きと議会の関係
- ・議会が災害時対応体制をとる災害の種類
- ・災害時の体制及び活動の基準
- ・情報の確な収集

## 健康ポイントプロジェクト事業

指宿市役所

健康・協働のまちづくり課

専用の歩数計を付けて歩いた歩数

## 農福連携への取り組み

社会福祉法人 白鳩会 鹿児島県

白鳩会は社会福祉法人であるが、農事組合法人を立ち上げ、知的障がい者の就労の場とし、農業・農産物加工の販売など、多角的な高付加価値事業に取り組んでいる。

社会福祉法人は、主に生活の場と就労訓練の場を提供し、農事組合法人は就労の場を提供している。それらが運営する敷地全体を「花の木農場」という。

花の木農場茶畑



農場は45haあり、水稻などの生産、茶の生産・加工、飲食店の経営など、それぞれ障がい者が就労している。また、刑務所から出所しても、再犯を繰り返す触法障がい者も積極的に受け入れている。

教育経済常任委員会

委員長 内藤 眞一



佐見浄水場

本事業は、通学路カラー舗装と流雪溝改修を合わせて行う工事であるが、委員から「流雪溝改修は多年に及ぶことから、事業を分けて実施すべきではないか」また、地元から「流雪溝の水量確保に強い要望があることから、水量確保の施策を流雪溝整備に先駆けて、早急に示すべき」との意見があった。

※工損調査とは、工事による振動や地盤のずれなどによって、家屋のぬじれや亀裂などが生じたときに補償するための事前調査

小・中学校エアコン整備事業 1億886万円

今年の夏の暑さは災害レベルと言われ、学校の教育環境が著しく悪化したため、町内の小学校と中学校の教室にエアコンを整備する。

118室のうち、職員室・保健室など47室には設置済み。特別教室など23教室を除く48教室が対象となる。

1月には発注し、夏までに整備を完了する方針で、冬季もエアコンによる暖房を考えている。

エアコン導入により、教育環境が改善されることを期待する。

園芸作物生産施設の設置及び管理に関する条例の改正

上赤名園芸作物生産施設1号に4棟の増設と傾原園芸作物生産施設1号6棟の新設を行う。

平成30年度 飯南町一般会計補正予算(第6号)

〈歳出〉 森林整備地域活動支援交付金事業 3268万円

原資は、飯石森林組合より事業未達成のため返還される4357万円で、差額の1089万円は飯南町が返還を受ける。

平成24年度から5年間の間伐計画を策定し、実施期間が終了したことに伴い、未実施部分の交付金を国及び県に返還する。

通学路整備事業 3798万円

赤名連担地の通学路整備費の増額。内訳は、工損調査費2000万円、工事費 1798万円。工損調査は、発注済みのものを含め、家屋等101棟、構造物48か所。



町道改良工事(傾原寺沢花栗線)

議会活動報告 [10月~12月]

- 10月 2日 議会広報編集委員会
4日 決算審査特別委員会
9日 町村議会広報研修会
11日 決算審査特別委員会
15日 議会運営委員会
17日 決算審査特別委員会
19日 全員協議会
22日 議員全員研修会
23日 決算審査特別委員会
24日 決算審査特別委員会
29日 決算審査特別委員会
30日 雲南地域スポーツ交流会

- 11月 6日 決算審査特別委員会
8日 決算審査特別委員会
12日 決算審査特別委員会
13日 議会運営委員会
14~16日 総務厚生常任委員会(熊本県・鹿児島視察)
19日 全員協議会
20日 決算審査特別委員会
21日 教育経済常任委員会(鳥取県伯耆町視察)
26日 決算審査特別委員会
30日 議会運営委員会

- 12月 4日 12月定例議会:本会議、町長提出議案の説明
7日 :本会議、一般質問
10~12日 :委員会審査
13日 :委員会審査、予算特別委員会審査
:議員全員協議会
14日 12月定例議会:本会議、討論、採決
18日 議会広報編集委員会
20日 議会運営委員会・教育経済常任委員会
25日 議会広報編集委員会



総務厚生常任委員会

委員長 瀧尻 行雄



指宿市役所にて

平成30年度 飯南町一般会計補正予算(第6号)

〈歳入〉 地方交付税 4324万円

災害復旧費国庫負担金 (公共土木施設災害復旧事業) 6590万円

7月豪雨で被災した公共土木施設災害事業の実施設計による増額補正。

災害復旧費県補助金 5190万円

7月豪雨で被災した農地災害復旧事業・林道災害復旧事業の実施設計による増額補正。

一般寄付金 200万円

広島市在住の高橋光枝氏からの寄付金。

〈歳出〉 一般職人件費 693万円

この内600万円は時間外勤務手当。年次的に増加している原因は何かとの質問に、業務の複雑多様化や、国・県への報告物が増加しており、若い職員では時間がかかるとの説明があった。

志々支所臨時管理費 302万円

老朽化により破損した志々支所別館のエアコンの更新。

平成15年度よりJ A雲南志々支所として使用されており、15年を経過し老朽化したため。

保育所共通臨時管理費 478万円

来島保育所3室・桜ヶ台保育所2室・さつき保育所1室、併せて6保育室へのエアコン設置費用。

赤名保育所の保育室にはすでに設置してあり、これにより、町内4保育所の保育室へのエアコン設置は完了する。

飯南町病院事業会計 リハビリテーション機器購入 200万円

足、膝、股関節のリハビリ用機器で、これにより脚部の筋力の衰えが改善されることが期待される。

原資は高橋光枝氏からの寄付金。

採決の結果 [12月定例会]

Table with columns for item name, result, and committee members (Ishida, Takisaki, etc.).

# つがか工房

代表 景山 百合子さん

平成17年に創業し、あん餅やおはぎなどの人気商品を、「ブナの里」や「たたらば番地」で販売している「つがか工房」。代表の景山さんと、工房の皆さんにお話を伺いました。



景山さん(左)と藤原さん



つがか工房の生い立ちを聞かせてください。

現在、主に13人が加工に従事しています。最初は都加賀産のおいしいコマと、大豆を利用した加工品の製造をしようというだけで計画しました。

始めの頃は、豆腐やもちを作り、後に施設を改造して仕出し営業許可を取り、弁当などにも取り組んでいます。今製造しているのは、おからクッキーやおやきなど34品種です。

商品開発は、お茶話の中でアイデアが浮かび、早速作って食べてみてから、どうするか考えます。お土産にもらったお菓子など、おいしかったらみんなで作ってみることもあります。

作ったものは絶対においしいという自信はありますが、包装容器のデザインや売り方が素人なのでそこが悩みの種です。

おからシリーズの最初はドーナツでしたが、日持ちしないのでクッキーの開発をしました。一番人気があるのはあん餅ですが、賞味期限1日の商品なので、よく売れる販売店でなければ置け

ません。ブナの里やたたらば番地に毎日出荷しています。営業は苦手なので、新たな販路開拓は進んでいません。

将来はどう考えていますか

若い人たちが加わって、念願のカフェをオープンしました。近所のお年寄りが楽しみに集まっています。皆さんにも気軽に立ち寄って都加賀を味わってほしいと思います。また、インターネットでの情報発信も始めました。

後継者となる若者が少ないので、今の間に技術の伝承をしておかなければ厳しいと思います。若い仲間が増えてほしい。

品種がたくさんあるので、原点に戻って看板商品を絞り込んでいこうと思います。

これからも都加賀の農産物を活かし、皆さんに愛される商品を作っていきたいと考えています。



お茶話の中から新商品が...

〈つがか工房ホームページ <http://tugaka.jp/>〉

## 今月の表紙写真



コーフルを食べながら、笑い声に包まれた作業場は、都加賀にある「つがか工房」。お土産のお菓子もスタッフには、商品サンプルの一つになるようです。次々とアイデアが生まれていくようですが、悩みは販売展開とのこと。30年前は「農家は売らんでもいい、売ってもらえばいい」という時代でしたが、今は販売企画がとても大切なので、知恵を絞って頑張ってください。

## 編集後記

明けましておめでとうございます。

昨年の漢字一字は「災」に決まりました。2月の北陸を中心とした豪雪、6月の大阪北部地震、7月の西日本豪雨、9月の北海道胆振(いぶり)東部地震、記録的暴風や高潮を観測した台風、その上に災害級の猛暑と、災害に始まり災害に終わった一年でした。

4月の島根県西部地震では、町内でも震度4を記録し、被害が発生しました。台風による被害もありました。また7月16日には、赤名観測所において観測史上最高の35.1℃を記録しました。

いつ起こるかかわからないが、必ず起こるのが災害であり、今後ますます災害に対する備えが必要となつてきます。

さて今年(いとし)は亥年(いとし)は「古い制度や枠組を改変し、安定した繁栄・成長の礎を築くべき年になる」といわれています。

また、天皇陛下の生前退位が決まり、5月1日から新しい元号に変わることになりました。つまり「平成」の時代が終わります。

新しい年・時代の幕開けに、みんなで力を合わせ、安心して暮らせる社会の実現を目指しましょう。

議会広報編集委員会 景山登美男